

令和6年度 江戸川区立松江第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学ぶ生徒 ・心の豊かな生徒 ・健康でたくましい生徒 	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p> <p><学校像>”生徒第一義の学校”・生徒一人一人の可能性を信じ、生徒の成長を第一とする学校・生徒自身の人生の基盤をつくることのできる学校・生徒が夢をもち、生徒の輝く笑顔がいつも見られる学校・生徒・保護者・地域から信頼される学校 <生徒像>・自分以外の多様な人を受け入れ、優しく温かい生徒 ・思いやりの気持ちと豊かな心をもち、ルールを守る生徒 ・意欲的に学力向上に努力する生徒 ・積極的に体力向上に努力する生徒 <教師像>・生徒の成長を第一とし、常に専門職としての資質・能力の向上に努める教職員 ・「師弟同行」を胸に刻み、胸を張って生徒指導に取り組める教職員 ・組織の一員として職責を十分理解し、互いに学び合い、高め合える教職員 ・前例踏襲にとらわれず、生徒第一義の教育活動を実践できる創造力豊かな教職員 ・生徒・保護者・地域の方・教職員に対しても優しく温かい対応ができる教職員</p>	
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育を基盤とした魅力ある教育活動の実践（SDGs、ユニバーサルデザイン） ・コロナ禍明け、通常の学校行事の完全実施 ・授業改善の継続、放課後補習教室や自主学習教室等による基礎学力の定着 	<p>課題</p> <p><課題>・家庭学習習慣の未定着者による基礎学力定着への一層丁寧な対応 ・不登校及び不登校傾向生徒、特別支援を要する生徒への個に応じた指導や支援の充実 ・本校入学を選択する生徒数の増加（昨年度の転入生約15人は安心して本校に通学している）</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善・・・目標の提示、学習活動の明確化（グループ活動の工夫）、振り返りの定着、ICT・タブレットの効果的活用 ・補習教室の機会拡充、適切な課題提示、学習状況の把握と評価	・全国学力・学習状況調査の数値を上回る（昨年度、都平均より国語-7 数学-5 英語+2） ・生徒・保護者アンケートの「学習指導・授業工夫」の項目、高評価80%以上（昨年度76%）	B		C	・全国学力・学習状況調査の結果は都平均より国語-7 数学-4。国語は変化しないが、数学は1ポイント改善した。 ・「学習指導・授業工夫」高評価は生徒97%・保護者85% ・補習教室の参加率は上昇 ・引き続き授業改善を継続していく	B	<学校評議員会 保護者アンケート PTA運営委等より> ・学力向上に努めてほしい ・生徒が分かる、楽しく学ぶ授業を目指してほしい	B	・生徒アンケートでは、「授業に意欲的」7～8割だが、「成果が表れた」のは5～6割。この差を埋めていくことが課題。 ・補習教室は参加率は安定していた。 ・スピーキングテストの結果は昨年よりも上昇した。	B	・引き続き、授業を工夫し、生徒の学力を向上させてほしい。	・授業改善（特に終末時の振り返りの工夫）、家庭学習時間の確保で成果を上げる。 ・単元テスト、確認テストの実施方法を工夫し、生徒自身の到達度の把握、指導法の改善につなげる。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・宿泊行事・校外学習の事前事後学習で、探究学習成果物の完成・レベルアップ。 ・全校生徒へも呼びかけ、自主的な探究活動の増加。 ・よむよむワークシートの有効活用	・全生徒の読書科の探究活動成果物、完成 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」の上位作品入賞(昨年度はなし) ・生徒アンケートの「情報収集・発表力向上」の高評価85%以上（昨年度83%） ・学校公開等での作品展示の保護者高評価92%以上（昨年度90%）	B		B	・「情報収集・発表力向上」高評価は3年生96% ・読書科・探究活動の成果物は制作中、文化祭、公開等で発表 ・各学年タブレットを使ったプレゼン発表は成果大 ・よむよむワークシートは好評	B	・文化祭・学校公開での生徒作品を楽しみにしている	B	・人権ブックトークでは、各自工夫あるプレゼン作品が発表できた。 ・中央図書館よりテーマごとに定期的な本を貸与できた。 ・よむよむワークシートは集中して取り組んだ。	B	・思いやりのある優しい生徒が多いと感じる。人権尊重の精神は忘れず、教育活動を行ってほしい。	・図書館との一層の連携事業を工夫し、読書科の時間を充実させる。 ・探究活動、発表の場を数多く設定し、プレゼン力を向上させる。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	・生活習慣改善の呼びかけと生活リズム、自己管理の定着 ・保健体育授業時の補強運動の継続 ・オリパラ教育や掲示物により、スポーツに親しむ心の育成	・感冒・感染による学校・学年閉鎖なしの継続（昨年度学年閉鎖1回） ・体力テスト評価、区平均・都平均を上回る ・生徒・保護者アンケートの「生活習慣・体力向上」の項目高評価80%以上（昨年度75%）	A		A	・「生活習慣・体力向上」高評価は生徒88%・保護者76% ・保健体育の意欲的な取組は3年生94% ・運動会も全体演技、団体種目等で参加意欲向上	A	・運動会はたいへん良かった、今後もこの形を続けてほしい ・スマホ・ゲーム時間が多い ・地域の運動会にも参加してほしい	A	・体力テストの結果は1年以上、都平均を上回った。授業での補助運動、運動習慣の継続の成果である。 ・スマホ・SNS・ゲーム時間はほぼ変化なし。	A	・引き続き、体育の授業や体育的行事を工夫し、生徒の健康・体力向上を目指してほしい。	・次年度はタブレット活用（Leate）により、学習時間の増加・生活習慣の改善につなげていく。 ・教育活動全般で自身の健康づくり・体力向上の意識を高めさせる。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副都庁交流、交流及び共同学習の実施・充実	・支援委員会が特性理解をベースに、具体的な支援策の共有 ・関係諸機関との緊密な連携（特にヤングケアラー、ネグレクト系） ・生徒、保護者のニーズに合わせた活用促進（オンライン授業、個別学習等）	・支援を要する生徒が、安心して通常の学校生活を送る（行動観察） ・生徒・保護者アンケートの「学校生活充実」の項目高評価90%以上（昨年度89%） ・保護者アンケートの「不登校、特別支援への指導」の項目高評価80%以上（昨年度62%）	A		A	・「学校生活充実」高評価は生徒93%・保護者90% ・「不登校、特別支援への指導」高評価は生徒91%・保護者76% ・支援委員会が適切な対応策を共有、今後も発展継続	A	・ヤングケアラー、ネグレクト等心配なことがあれば、民生児童委員に連絡してほしい →児相関係諸機関とも連携して対応している 最悪の状態は絶対に防く	A	・自己肯定感・お互いを認める心が育っている。 ・教員にSOSを出せる生徒もいて、悪状況を改善できた。 ・個々の生徒には適切な支援策を推進できた。	A	・心配な生徒がいたら、地域も協力します。	・教員との信頼関係を築くことを常に意識し、学校行事・学級活動・生徒会活動を工夫する。 ・支援委員会・生活指導部会で個々の生徒の状況を把握し、迅速丁寧な対策を進める。
不登校・いじめ対応の充実	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校生徒への対策の充実	・欠席増加（連続3日を目安）による初期対応と適切な支援	・不登校生徒の減少（目標10以下、昨年度15）	B		B	・不登校生徒は16人だが、個々に適切に対応中 ・SC SSW 関係諸機関とも円滑に連携 今後もより良い形を探る	B	・適切に対応しているため、安心している	B	・3学期の報告では、不登校生徒は微増したが、個々の対応を丁寧に行い、どこにもつながっていない生徒は0である。 ・ステップアップルームの活用が進んだ。	B	様々な不登校の原因があると思う。一人一人に丁寧に対応してほしい。	・来年度もSC SSW 関係諸機関とも迅速に連携し、最適な対応を実行する。 ・ステップアップルームの活用を工夫し、教室復帰へ向かわせる。
	・教育相談の強化 ・Hyper-QUの活用	・個別面談、SC面談等の情報共有 ・Hyper-QUの分析による要支援・不満足群への支援	・いじめ案件を限りなくゼロに近づける ・Hyper-QUの要支援・不満足群の改善（第2回QUでの数減少、昨年度は全クラスとも改善） ・保護者アンケートの「いじめ指導、問題行動解決」の項目高評価80%以上（昨年度68%）	A		A	・重大事態につながる件はなし ・「いじめ指導、問題行動解決」高評価は生徒91%・保護者78% ・QUの結果を学年・担任が分析し対応中	A	・生徒の様子を見ると、落ち着いている ・SNSのトラブル等ははやくに対処してもらい、良かった	A	・悪口、SNSでのトラブル等があったが、年間を通じて、安定した学校生活であった。重大事態につながる件はなし。 ・QUの結果も、どのクラスも良好な方向へ変化している。	A	・いじめが少なく、安心した。続けてほしい。	・学校全体で、いじめは絶対×、の空気を醸成していく。 ・本人・保護者の声をより一層傾聴し、生徒同士の良い関係を築く支援を継続する。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	<自校（園）の取組の積極的な発信> ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・ほぼ毎日更新をめざし、適切な情報公開の実施 ・土曜授業・学校公開の年5回実施 ・学校公開時の保護者アンケート、高評価 ・保護者会等の欠席者への適切な情報提供	・保護者アンケートの「情報発信」の項目高評価95%以上（昨年度95%） ・Hyper-QUの要支援・不満足群の改善（第2回QUでの数減少、昨年度は全クラスとも改善） ・保護者アンケートの「いじめ指導、問題行動解決」の項目高評価80%以上（昨年度68%）	A		A	・「情報発信」高評価は保護者90% ・通知文等をtetoru発信に切り替え高評価 ・9月学校説明会に150人以上出席	A	・HPがリニューアルし、見やすくなった ・今後も生徒の活躍をHPで伝えてほしい	A	・様々な場面でtetoruを有効活用できた。 ・宿泊行事・校外学習のHP更新は保護者に好評であった。 ・学校の良い様子を伝えられたことが新入生の増加につながったと考えている。	A	・学校は適切に情報発信を行っている。良い。	・今後も生徒の活躍が伝えられるHPの更新、保護者の方への確かな情報発信を継続していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学期ごとの生徒・保護者アンケートの実施 ・PTA役員会、学校評議員会による意見聴取	・生徒・保護者アンケートの「教育活動全般」の項目高評価90%以上（昨年度75%） ・本校への肯定的な意見、9割以上（昨年度、批判的な意見はほぼなし）	A		A	・「教員との信頼関係」高評価は生徒97%・保護者83% ・PTA 評議員会が肯定的な声が多数	A	・公開での保護者意見はほぼ高評価である ・評議員会時の授業見学でも、生徒の様子は良かった	A	・「教員との信頼関係」高評価は生徒・保護者ともに9割近い。 ・来年度入学生徒が予想より40人以上増加した。	A	・様々な行事で、先生と生徒との関係が良いと思う。続けてほしい。	・来年度のクラス増を好材料ととらえ、教員と生徒のより良い関係を築くことを主眼に現在の教育活動を発展させていく。
教育の展開 特色ある	<令和3・4年度 都人権尊重教育推進校の成果を継続発展>	・共生社会の考えを基盤にした、差別や偏見のない環境づくり（校内環境整備、講演会、道徳授業等）	・生徒・保護者アンケートの「教育活動全般」の項目高評価90%以上（昨年度生徒88% 保護者75%）	B		B	・「学校生活充実」「教員との信頼関係」高評価は生徒・保護者の全平均91%	A	・今後も人権尊重の精神にもとづいて、教育活動を進めてほしい	A	・道徳授業でも人権意識が向上している場面が多かった。 ・毎月の人権教育目標は意識できた。	A	・道徳の授業公開はととても良かった。生徒が集中し、深く考えていた。	・人権教育目標を常に念頭に指導言ができるように、管理職・主幹・主任が意識して行動する。
	<教員研修のさらなる工夫と実施>	・OJTグループと研修グループを融合し、教員同士の力量の向上 ・個別テーマの研修の充実	・年度末の面接、校内研修で成果を報告、高評価8割以上、持続可能な研修への更なる助言	B		B	・全教員を4つのグループに分けOJTを逐次実施、若手教員からの好意見多数 ・各教員自身のテーマで研修進捗中	B	・今後、研修の成果を共有し、学校全体の指導力アップにつなげてほしい	B	・OJTグループは若手教員に一定の成果があった。 ・各教員のテーマ研修も共有し、次年度につなげられた。	B	・工夫しながら続けてください。	・研修体制に一層の工夫をしていく。ミニマム研究授業の形で互いの指導法を高め合う研修を予定している。
	<働き方改革の一層の推進>	・定時退勤日の告知・呼びかけ ・部活動時間の改変（年間通じ18時最終下校）→生徒生活リズムの安定	・時間外80h 越え産業医面談を年間を通じゼロに（昨年度は5人） ・ストレスチェックの数値をより一層低く（昨年度区内上位）	B		B	・80h以上は3人以下、今後も減少させる ・ストレスチェックは区内5位だが、様々な支援も働きがい◎の結果	B	・教員の仕事はハードなので、管理職が意識して、心身のリフレッシュをはからせてほしい	B	・面接指導を受けた教員がいたが、改善に向かっている。 ・昨年度よりも時間外勤務は減少傾向である。	B	・管理職の先生は、先生方とコミュニケーションを絶やさず、健康状態をしっかり見極めて対応してください。	・「教員が働きたいと思える学校」づくりを念頭に、一斉定時退勤日の予告、リフレッシュのための休暇取得を推進していく。